



ユニ総合計画の グリーンレポート

1級建築士
不動産コンサルタント 秋山英樹

131号

発行日2019年1月

「少子高齢化社会とグローバル化」

明けましておめでとうございます。

高齢化が進んでいるにも関わらず、特別養護老人ホームのベットの1割が空いているという報道を目にしました。入居希望者は多いのですがスタッフ不足で受け入れができないということです。

そのような社会状況も踏まえて昨年入管改正法が可決され、単純労働を含む外国人労働者の受け入れを拡大することになりました。

私の母も特養に入っており、よく顔を出しているのでも内容も分かります。担当スタッフにより間違いなく元気さの違いがあります。寝たきりにさせれば楽ですが、家族としてはできる限り歩かせたり、トイレを訴えたり時間をかけてでも自分で食事ができるように介助してもらいたいという希望があります。それには顔の表情などの観察能力なども問われ、「言われた通りオムツ交換してればいい」「喘に入浴の介助をすればよい」といったものではないのです。

しかし、介護保険も将来は破綻の危機がある現実では、教育に時間や労力をかけられる費用とスタッフの報酬のアップを図れる事業者は多くありません。そこで、低報酬でも日本で働きたいという外国人労働者を受け入れざるを得ない現実も分かりますが、受け入れるための基準などをしっかりと決めなければ、後で社会問題になることも懸念されます。死亡事故や虐待が発生している施設では介護の基礎研修や介護事故に対する教育が行われないなど、労働環境に問題があるケースが少なくありません。

このままだと介護スタッフだけでなく、建設・農林水産からコンビニ・居酒屋、要するに3Kのような仕事には外国人に頼るといった、欧米並みのグローバル化した多民族国家になることになりました。

そういえば、山手線の新駅の名称が「高輪ゲートウェイ」と初めて英語名称。Tokyoは世界的に有名ですが、渋谷・新宿は難しく、ゲートウェイなら外人に覚えられます。

品川エリアは2030年代には10万平米の再開発が完成予定で、羽田空港とつながり、リニア中央新幹線の始発駅となります。東京都も国家戦略特区を活用し、外国人向け住宅の整備を後押しし、新駅は文字通り日本の玄関口（ゲートウェイ）を

めざし、ゆくゆくは第二のニューヨークになるのでしょうか。

わが国は世界で唯一、単民族国家として1500年近く続いてきた国ですが、明治維新そして第二次世界大戦の敗戦で結ばれたアメリカとの日米地位協定をはじめ、完全に独立はしていないのが現実です。しかし、表面的には単民族国家としての独自性を保っています。しかし、少子高齢化社会に突入した現在、いまの水準の経済を維持するためには、どうしても外国人を使っていけないと立ち行かなくなるのは目に見えています。

外国人も含んだ多民族国家としても、日本の文化や伝統は諸外国からも尊重されていますから、今後は文化・伝統と守りながら外国人との共生をどうしていくのかが必要な課題になってくると思います。すなわち、単民族として生き残るのではなく、日本文化として日本は生き残るのではないのでしょうか。日本人が日本文化を作るのではなく「日本文化が日本人を作る」と言ったほうが当てはまると思います。

特に日本文化で冴えたるものは食文化でしょう。こんなにバラエティのある食文化は世界に類を見ません。外国の食文化でさえ、取り入れて日本化してしまいます。最初は模倣でも最終的に日本化してしまうのは建築を始めアニメやファッションの世界でも同様です。

トルコに行ったときに聞いた話ですが、一般的なトルコ人は、日常食べているもの以外口にしない人が多く、日本に旅行に来ても頑なに同じものを食しているということです。しかし、ガイドが無理やり食べてもらいましたら、しまいには大好きになったということです。テレビで納豆でさえ好物としている外人が紹介されます。食わず嫌いの外人に比べて、日本人は何でも食して取り込んでしまいます。テレビでは毎日のようにバラエティ番組には食レポがうんざりするほど登場します。食文化が世界に誇れる一番の文化です。

逆に日本文化で劣っているのがコミュニケーションです。RとLの音は日本人には聞き分けられません。他の言語ができると、もっとほかの言語ができるようになると聞きます。少なくとも英語が話せるようになると日本文化そして経済も飛躍的に世界に羽ばたくことができると思います。